

令和5年度生野区区政会議 第1回こどもの未来部会

1 開催日時

令和5年6月14日（水） 19時00分～20時24分

2 開催場所

生野区役所 5階 502・503会議室

3 出席者

（区政会議委員）6名

加藤委員、山崎委員、大藤委員、塚本委員、洪委員、森本委員

（区PTA協議会）1名

上田会長

（生野区役所）10名

筋原生野区長、小原副区長、近藤教育委員会事務局学校環境整備担当部長兼生野区役所こども未来担当部長、大川企画総務課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、徳元教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、小川保健福祉課長、森子育て・地域福祉担当課長、杉本区政推進担当課長

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和4年度生野区の実施の振り返りについて

資料1

令和4年度生野区の実施の振り返りについて
（こどもの未来部会：抜粋分）

参考資料1

令和4年度生野区の実施の振り返りについて
（こどもの未来部会：抜粋分）＜説明スライド＞

参考資料2

いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応
（令和4年度第3回全体会分）

（2）その他

参考資料3

令和5年生野区区政会議委員改選について（お知らせ）

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは皆様、お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第1回生野区区政会議こどもの未来部会を始めさせていただきます。

委員の皆様、ご多用のところご参加いただきましてありがとうございます。私、事務局の生野区役所企画総務課、杉本と申します。着座にて失礼いたします。よろ

しくをお願いします。

まず、会議開催の前に本日の出席状況についてご報告いたします。

本日の会議は委員定数10名に対しまして5名のご出席となりまして、定数2分の1以上ということで出席にて有効に成立してございます。

なお、当部会については、分権型の教育行政を担う区役所が保護者、区民の皆様の多様な意見、ニーズを酌み取るための会議としての役割を担っておりまして、本日、関係者として区PTA協議会から新たに1名の方、上田様にご参加いただいております。ありがとうございます。

そして本日の傍聴者は1名となっております。

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局で会議録を作成しまして、後日、区役所のホームページ等で公開いたしますので、録音、撮影についてご了承のほどお願い申し上げます。

続きまして、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明いたします。

本日のこどもの未来部会では、主に子育て・教育の分野について昨年度の生野区の取組を振り返りまして、その評価や課題について委員の皆様にご意見やご議論をいただき、次の取組へとつなげていきたいと考えてございます。本日の会議でいただいたご意見は後日開催されます全体会の場で報告いただき、全ての委員の皆様にご共有いただきます。

それでは続きまして、本日の資料についてご説明申し上げます。

まず、左肩に当日用とございます「令和5年度第1回生野区区政会議こどもの未来部会」の次第をご覧ください。本日の会議資料が掲載しております。資料がおそろいでない場合は、お手を挙げていただければまたお持ちいたします。

まず資料1といたしまして、これは事前に送付しております「令和4年度生野区の取組み振り返りについて（こどもの未来部会：抜粋分）」というA4横の資料がございます。

続きまして、本日配付の資料でございます。

まず参考資料1としまして、前面のスクリーンで投影しておりますスライドを印刷しましたA4横の資料がございます。また、同じく参考資料2としまして、前回3月に開催した全体会における「いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応」というA4縦の資料がございます。そしてその他の参考資料3としまして、これは後にご案内いたしますが、「令和5年生野区区政会議委員改選について」というA4縦の1枚ものの資料がございます。

最後に、次第には書いてはございませんが、部会委員の名簿、そして区政会議こどもの未来部会に関するアンケート用紙を机の上に置かせていただいております。お手数ではございますが、お帰りまでにご記載いただいて、そのまま机の上に置いてお帰りいただきますと幸いです。

事務局からの報告は以上となっております。

それでは、これからの議事進行については大藤部会長によりしくお願いしたいと思っております。

○大藤部会長

こんばんは。部会長の大藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまから令和5年度第1回こどもの未来部会を開催します。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが区役所と一緒に
なって意見を述べる場となっています。

部会が出された意見は全体会議において報告し、共有することとなります。その
中で、この部会は生野区の子ども・教育の分野について有効で活発な議論が行える
ように意見交換を進めていきますので、皆様、よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして筋原区長からご挨拶をお願いします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。本日はお忙しい中、第1回区政会議
こどもの未来部会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

コロナも第5類になりまして、まちの活気も随分と戻ってきたように感じており
ます。大阪・関西万博も2年後に迫ってまいりまして、生野区でも「EXPOいく
のヒートアッププロジェクト」という名前で万博に向けていろいろな熱量を盛り上
げていこうといういろんな企画をやっていこうと思っておりますので、またご協力
よろしくお願いします。

ただ、一方で人の動きが非常に活発になってきましたので、コロナの感染者数が
かなり増えてきておりまして、医療機関の方に聞くと、この1か月で倍に増えたら
しいんですよ。あと、はしかの感染者であるとか、またO157もちょっと増えて
きているというようにも聞いておりますので、また感染防止のほうは引き続き十分
お気をつけていただければと思っております。

本日は、こどもの未来部会のテーマですね、次世代の生野区のまちの未来を担う
子どもたちに関する分野ですけども、令和4年度の取組の振り返りについてご報告
をさせていただきますので、忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区政に
つなげてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありが
とうございます。

○大藤部会長

ありがとうございました。

それでは、ただいまから議事に入るに当たりまして、これからは学識の委員であ
ります森本委員に会議の進行等をお願いしたいと思います。

森本委員、よろしくお願いいたします。

○森本委員

こんばんは。指名いただいた森本です。どうぞよろしくお願いいたします。

では、会議の次第に沿いまして、議事1ということで、「令和4年度生野区の取
組みの振り返りについて」ということで区役所からご説明をいただければというふ
うに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

皆様、こんばんは。企画総務課の武田と申します。令和4年度生野区の取組みの
振り返りにつきまして私のほうからご説明させていただきます。着座して説明のほ

うさせていただきます。

本日配付のほうしております2行目に参考資料1と書かれた「令和4年度生野区
の取組み振り返りについて（こどもの未来部会：抜粋分）」、こちらのほうか前方
のスクリーンのほうか、どちらかのほうご覧いただきますようお願いします。詳
しい内容につきましては、事前に送付しています資料1にあります。こちらはそ
の中から抜粋したものとなっています。

2ページをご覧ください。

本日、皆様にご意見いただくテーマとしまして大きく二つに分かれています。一
つ目は子育て支援・環境づくり、二つ目は教育支援・環境づくりとなっています。

3ページをご覧ください。

まずは子育て支援・環境づくりの現状についてご説明します。

前提となる大きな問題としまして、生野区は全国同様に少子化が進行しています。
大阪市24区の中でも年少人口の割合は低く、2045年には市内ワースト2になると見
込まれています。

区民の方へのアンケート調査により、安心して子育てできる環境が整っていない、
子育てが地域や社会に支えられていないと感じる方が一定割合存在しています。ま
た、育児不安やストレスを感じた際に相談できる相手がおらずに孤立化すること
によって、様々な問題へと発展するおそれがあります。

4ページをご覧ください。

そこで、妊娠期から保健師との顔の見える関係づくりによる継続した支援や子育
て相談・支援機関等と連携し、適切な機関につなげるなど、妊娠から出産、乳幼児
期から就学期にわたる各ライフステージをトータルで支援してきました。こちらは
広報いくので紹介したものでございます。

5ページをご覧ください。

また、絵本への親しみを通じた親子の交流や子育て交流イベントなど、子育てそ
のものが楽しくなるように取り組んできました。

6ページをご覧ください。

こちらは重大な児童虐待ゼロに向けた取組の一環として、生野区こども地域包括
ケアシステムのイメージ図であります。

ご覧のとおり、区役所をはじめとした子育て支援機関と学校、そして企業・団体
とも連携し、子どもや保護者を地域全体で見守っていくという仕組みで虐待の早期
発見や課題解決に取り組みました。

7ページをご覧ください。

こうした子育て支援・環境づくりの取組ですが、個々の取組において一定の目標
や目安となる基準を立て、達成できたものあるいは基準には至らなかったものなど
様々ありますが、これらの取組を振り返って今後より有効な取組につなげていくた
めの課題としまして、安心して子育てができるよう子育て支援情報に容易にアクセ
スできる環境をどのようにしてつくっていくか、孤立しがちな子育て世帯などが気
軽に相談や交流できるような機会をどのように提供していくか、地域ぐるみで子育
て支援ができるネットワークをどのように広めていくか、これらの課題に対しまし

て、地域住民の目線から見てもっと有効な手だて、アイデアはあるだろうか、そういった点を論点として挙げさせていただいております。

8ページをご覧ください。

次のテーマであります教育支援・環境づくりについて説明のほうさせていただきます。

9ページをご覧ください。

少子化やグローバル化が進む中で子どもたちに求められる教育環境も変わってきます。子どもたちが自ら学ぶ自主学習習慣を含めて学校外での学びの機会が不足しがちです。また、学校の取組だけでは子どもに多様な学びの機会を十分に提供することが難しい状況にあります。

10ページをご覧ください。

そこで、学び支援事業として、区内小学校・義務教育学校にて自主学習習慣の確立や健康・体力の保持・増進を目的に、模擬検定等の受験を学校が活用できる機会を提供しました。また、いくの塾として民間事業者等を活用した課外授業を行い、生徒の自尊感情を醸成し、将来の夢や目標を持ち、その実現に必要な自ら学ぶ力と自主学習習慣の定着、基礎学力向上のための取組を行いました。

そして、生きるチカラまなびサポート事業としまして、キャリア教育や性・生教育を支援する生きるチカラまなびサポーターを学校の要請に応じて派遣のほうをしてきました。

11ページをご覧ください。

こちらはI KUNO未来教育ネットワークのイメージ図であります。

I KUNO未来教育ネットワークは、出前授業や職場体験の受入れ、探求型学習プログラム等の支援メニューを多様な企業・団体等に提供いただくことで生野区の子どもの学びを支援し、キャリア教育や体験活動の充実、学校支援を推進してきました。

スライドにありますサンダルも、区内サンダルのメーカーでありますリゲッタさんと生野未来学園の子どもたちで発案し、実際に商品化されたものであります。ほかにも、パン作りといった様々な企画を進めているところであります。子どもたちが自らキャリアを考え、将来の起業にもつながっていくものと期待しております。

12ページをご覧ください。

以上の取組を振り返り、今後より有効なものにつなげていくための課題といたしまして、これからの変化の激しい時代で子どもたちの生きる力をどのようにして育成していくか、これらの課題に対して地域住民の目線から見てもっと有効な手だて、アイデアはあるだろうか、そういった点を論点として挙げさせていただいております。

以上、教育支援・環境づくりの取組の説明となります。委員の皆様、よろしくお願いいたします。

○森本委員

ありがとうございます。

今ですね、二つということで、子育て支援・環境づくりというようなこと、これ

は多分主に就学前の子どもたちが対象かと思われます。その後、教育支援・環境づくりということで、就学以降の子どもたちということでの振り返りをしていただきました。

ここからはぜひ皆さんといろんなご意見をいただきながら、出していただいた課題に対して話を進めていければいいかなと思っています。

分かりやすく課題も提示をしていただいています。7ページに一つ課題ということで3点出していただいています。また、最終ページ12ページも課題という形で出していただいています。

聞いていただいた上でいろんなご意見をいただいて、皆さんとこのことについて考えていきたいかなと思っています。今日はこの広さですので、話しやすい雰囲気かなというふうに私は思っていますので、ぜひ忌憚なくご意見をいただいてと思っています。ご発言いただくときは挙手いただいて、お名前を言っていただいてからお話をいただいたらと思っています。今から約8時過ぎぐらいまでを目指してお話というふうに思いますので、どなたからでも思われたこと、気づいたこととお話していただいたらいいかなと思いますがいかがでしょうか。

塚本委員。

○塚本副部長

塚本です。

子育てはもう終わりましたが大分30年ぐらいたちますけれども、ちょっと外から見てまして、生野区の子どもさんたちを連れた親御さんの感覚、姿を見てまして、生野区って本当に、私自身もいろいろ全国転勤していた中で、結構住みやすい、子育てしやすいところかなというふうには感じています。例えばオンデマンドバス、生野区で始まりましたけれども、私も毎日オンデマンドバスに乗ってますが、最近すごく子どもさんを抱えた親御さん、お母さんたちが乗ってくるようになったんですね。バス停まで遠いだとか、多分地下鉄の駅も遠いんだと思うんですけど、結構、1週間に二、三回見るようなイメージですね。日によっては3組の子連れさんたち、ママ友さんというんでしょうかね、そういう方が乗ってこられて驚いたという状況もありますし、本当にオンデマンドバス、要するに生野区さんが企画をして狙ったとおりにそのように展開していくということについては、本当にすごい企画でよかったかなというふうに思ってますので、区政会議なり区役所さんたちの努力というのをここで実感したなというふうに感じました。

○森本委員

ありがとうございます。よかったです。

オンデマンドバスを利用されている方もあってということで、住みやすいんじゃないかなというふうに思うというご意見をいただいています。

子育てですね、目に触れられる小さなお子さんをお持ちの親子とかの姿などから何か感じられることとかということありますでしょうか。

少しお話をさせていただきますが、生野区の特徴で在日外国人の方が非常に多いんですが、私、保育所に勤めてますので、見ていると日本以外のルーツの方、国籍の方がすごく増えてきています。5人に1人が外国人と言われている生野区なんで

すけれども、最近すごく増えてるのがベトナムの方とネパールの方。すごく生野区は増えてます。保育所入所も非常にたくさんの方が保育所を利用されているようです。

保育所を利用できているということが、一つ、区のほうで保育所入所をしてくださってるんですけども、こういう場所で保育ができるよとか、預かれるよとかというようにことのやり取りがうまくいってるのかなというふうに私は思ったりしているところです。

でも一方で、まだまだお子さんをどこにも預けに行くことができてなくてという方もたくさんいらっしゃるのかなというふうに思ったりするんですが、お近くで見かけられる外国のルーツ、外国籍の方かなと思われるような親子の姿であるとか、近くのご近所の親子の姿から何か思われるようなこととか感じられるようなことがあれば、お話をいただけたらと思います。

何でも結構です。もしよければ。

○上田PTA協議会会長

初めまして。生野区PTA協議会の上田と申します。

初めて参加させていただきまして、僕も区のPTAすることも初めてでして、ほとんど分かってないんですけども、うちは子ども9人おまして子育て真っ最中なんですけれども、近所にも外国の方は結構多くいらっしゃいます。多分働くところが結構生野区は海外の方が働きやすいのかなとは思っています。

これを通してということですか。

○森本委員

それでなくても、ご近所で見えて、生野区の子育てってこれがうまくいってるのかなとか、これが課題かなとか、何か感じられるようなことでもいいかなと思うんですけども。

今お子さんいらっしゃるっておっしゃったのですが、一番下の子はお幾つですか。

○上田PTA協議会会長

1歳です。

○森本委員

だとしたら、その同じぐらいの年齢のお子さんで何か。あまりあれかな、関わりがないですかね。

○上田PTA協議会会長

そうですね。でも保育所とかでも結構海外の子が多かったりとか、小学校の同級生でも中国の方とかは結構おられるみたいですけど。

ちょっといきなり難しいですね。

○森本委員

すみません。申し訳ないです。では、また後で。

○上田PTA協議会会長

また、はい、ごめんなさい。

○森本委員

在日外国人ではないですが、洪委員、よければそのことも含めて生野区の特徴で

すので、子育てのこと、教育のことも関わっていらっしゃるかと思うんですけど、何かご意見いただけたらと思います。

○洪委員

すみません、遅れました。

もともとは生野区ではなくて、生まれたのは今でいう中央区で、結婚してから生野区に住むようになりました。職場がずっと生野区でして、今は生野区ではないんですが、そこから見えてきたことが実はたくさんありまして、住んでから分かったこと、仕事でここで分かったこと、今はまた違う地域でというか、他市になりました。住んでるのはもちろんここなんですけど、やはり最初は生野区も外国の人たちにとっては優しくないまちやったと思うんですが、今は例えば一つの区政だよりとかそういうことに対しても、たくさんの外国の人が住んでいるよとか、外国の人たちがこんな仕事のところに就いていて、こういう仕事を担っているよとか、すごく明るいというか、地域住民としての外国の人の紹介の在り方だとか、それとかこういう国から来ているので、こういう特色があるので、こういうように生活されていますみたいなものが多く紹介されるようになったなということがとても喜ばしくて、今他地域で仕事をしている者としては、教育関係にいてるので、生野区はこういうことがありますよって宣伝ができるようになったことが一つうれしいなと思っています。生野区に住んでいると、自分の地域ですので、なかなか他地域といい意味で比較をしながら伝えることがなかなかできなかったんですが、だからオンデマンドバスもそうですし、学校の中での教育の在り方もそうです。

ただ、ずっと私、区政委員をしまして一つ思っていることは、小さなお子さんのものは大分、手厚くまではやっぱりまだまだだと思うんですけど、いろんなところでお子さんが元気に健やかに育つような環境であるとか、その保護者の人を支えるということも増えてきたんですけれども、小学校の高学年ぐらい、特に中学生のこれからを担う子が高校とか大学、大学というか働くというか自分の人生の一つ目の岐路に立つときにどれだけフォローができてるのかなと思っています。いろいろなことはやってるんですが、結局それが浸透していなかったりとか、そもそも学校でしんどい思いをしてるということがなかなか見えにくいなと思っています。

その子たちが他地域に行ったとしてもまだ戻ってくるという、やはり自分の地域に戻って、自分らが育ったまちがとても住みよいまちやったということで、外に出ても次は俺らが担うんや、私らがこんなふうになつていくんやというところまで見据えての中高生といいますか、小学校の高学年からの子育てが私は必要じゃないかなと思っています。

あと、外国の人たちとの関わりもすごく、いくのパークもできましたし、何か食でぽっと目立つところはすごくなってきたんですけど、やっぱり日常のそういう子育てがこれからますますまたしんどくなるときに、子どもが大きくなって思春期に入る頃に、おうちの人たちが少しくつろぎながら、子どもの塾の補助、私は塾の補助というよりも、そもそも塾に行かへんでもええような学校現場にならなあかなと実は思っているんで、でも実際今そういう状況の中でその保護者の人たちを助けるような、ちょこっとコーヒー飲みながら何や言えるみたいな、社協の方たちも

すごい頑張ってくれてると思うんですけど、ああいう取組がいろんなところに、生野区は私は多いと思っています。でもなかなかまだやっぱり敷居が高いといえますか、そんなこと相談するのは恥ずかしいと思うこととか、うちの子はあかんねんって決めてしまうつらさであるとか、学校とは違ってね、そういうところがあれば。

だから、もともと保育園から出発して、保育園の先生がそういうことを言えるような、中学校やったらこんなところあるでというようなことがあれば、私は外国の人はもちろんですけど、外国じゃない人たちも、その人たちも一緒に交じりながらできるのは生野区だと思っていますし、今他地域にいてるので、私は実は参考にして、生野こんなあるからこれしてみたらどうですかと声をかけています。実際にその現場に行ってみに行きはった先生とか地域の人たちもいるんですね。

だから、生野区がやってることは実はすごい、やっぱり前も言っていましたけど宣伝をしながら、子どもたちが今住んでる人が出ていかないようにするのももちろんですが、出ていったときに戻ってこれるところも大事なところかなとちょっとと思っています。

○森本委員

ありがとうございました。

外国の方については随分と生きやすいまちになりつつあるな、でも思春期のあたりの子どもたちとか、その時代の親のフォローの場所、その辺りのことが課題なんじゃないかなということをお話しいただいたのかなと思うんですが、いかがでしょうか。何か思われること、感じられることで結構です。何かお話をいただけたらいいかなと思います。

○山崎委員

皆さん、こんばんは。東小路地域から来ました山崎です。

東小路というのは生野区でも一番東側にあって、東大阪と隣接してるところです。うちは東小路小学校と新生野中学校があるんですけども、新生野中学校のそばに実は日本語学校がもう何年も前からできてまして、本当に外国人の方、まだ学校に通われてる方だと思うんですけども、すごく多いです。たくさんいるな、特に先ほどおっしゃったベトナム系の方、ネパール・インド系の方が本当に多くて、子どもたちも今中学1年生と中学3年生なんですけど、そんなに違和感もなく溶け込んでいるような状態です。

だから、今後そういう人たちがどんどん増えていったら生野区で暮らすようになっていく、今後はどうなるのかは知りませんが、もっと住んでいてくれたらいいなというふうには思います。

あと、これも先ほどおっしゃっていたオンデマンドバス。私は一度も乗ったことないんですけども、町なか生野区を仕事で走っていると本当によく見かけます。何かいっぱい走ってるな、もともとは01番のバスがもう04番とか、何か増えてるなというのをすごい感じてて、もっともっと活用する人が増えればいいかなと。

なかなか正直どうやってじゃあ乗るねんとか、どうしたら、どこまで行ってくれるとか、そういうそこまで僕自身も分かってないし、何か僕、整骨院行ってるんですけど、おばあちゃんがそんなんあんねんっていうのは知ってるけど、どうやって乗るかまではちゃんと分かってなかったりとか、それを説明できない僕がいたりと

か、何かもうちょっと分かりやすく、まあ分かりやすくしてるんですけど、何か例えばそういったときに名刺サイズの何か、そういうこんなありますよってばってその場で渡せるようなものがあったりとかしてもいいのかなと。

例えば子育て、小さいお子さんも、僕は子どもが中学生なので、幼稚園未満の子どもさんたちが身近にいないんですけども、たまたま見かけたときにでも、本当に家の近所の人やったら声はかけるんですけど、あまり顔も見たことない人がいきなり何かどうですかと言うのも今どき不審者になってしまうので、何かそれやったらそれこそ名刺サイズのQRコードがついてたり、日本語ではなくて外国語も書いてあって、小さな生野区だよりみたいな、これどうぞみたいなばって渡せる何かあればいいかななんて思ってます。今実際そんなものがあるのかないのかもちょっと分からない状態でしゃべってるんですけど。今本当に小さい子ども、近所の本当に知ってる子ども以外には声かけとかもなかなかできない、不審者扱いされたりとかそういう世の中なんで、僕が誰かも分かれへんし、何かそういう簡単にできるような何かがあったらいいのかなと思ったりもします。

○森本委員

ありがとうございます。面白い、いい提案をいただいたのかなと思ったりしてます。

不審者に思われないように、困ってる人に何かツールとしてこんなものがありますよみたいなふうに、オンデマンドバスの使い方でもそうでしょうし、親御さんが相談に行ける場所ここですよみたいなうまいカードというか、何かそういうものもあるといいのかもしれないですね。今あちこちQRコードでお知らせするというようなことができてるので、何かそういううまいツールがあれば、もっと子育ても、それから小学生の子どもたちにも、その親にも、何か情報提供できるかもしれない、そんなことを考えていくのは面白い提案だなというふうに聞かせていただきました。ありがとうございます。

○洪委員

学校とかそういうところに、今おっしゃっていた本当にこのぐらいのA4サイズで子どもがそのまま持って帰るものにチラシみたいなのはオンデマンドバスってありましたか。どうやったかなって私ちょっと。学校は使ったらいいと思っています。公立の小・中学校は。幼稚園もありますし、生野区は保育園もたくさんありますし、あと認可保育園とかそういうところもあるので、あと子ども会なども。結局そういうところに、一番必要としてる人に私は情報が行ってほしいなと思うんですけど。

○加藤委員

何か資料はありましたね、コースの。あれしか見たことないですね。

○洪委員

ないですね。だから学校は必ず、大きくなったら保護者の方もなかなかプリント見ませんが、基本的にそういうものがあれば、外国の人も。

○大藤部会長

あれどうなんかな、保健福祉センターで母子手帳と一緒に渡せるようなものがあ

ったら。

○塚本副部長

毎日乗っている者から見て、塾の通塾だとか、子どもさんだけで、親御さんが見送って子どもさんが乗ってそこで降りるとか、結構子どもさんの頻度が増えていて、親御さんもすごく安心ですよ、オンデマンドバスに乗ることは。ですから、それはいいアイデアだというふうに思います。

配布物はあるんです。ただ、子ども用ではなくて一般用で、一般をまた新しく印刷しまして停留所も増えてというのはあるので、それを小学校・幼稚園用にアレンジして配るのもいいアイデアだなというふうに感じました。

○森本委員

ありがとうございます。

今よかったら区役所の方、オンデマンドバスのチラシとかは、どの辺りにどんなふうに配布してるのかなというのは、どうなんでしょうかね。

○加藤委員

あまり多くは配布してませんね。

○小原副区長

ご意見ありがとうございます。

オンデマンドバスのパンフレットは区内各所に置かせていただいております。また、集会所などを活用させていただいて、オンデマンドバスアプリのダウンロードとかそういう取組もさせていただいています。

ご意見いただいたように、子育て層などに届くような、区役所でしたら玄関入ってすぐのパンフレット掲示コーナーのところに一応目立つように案内させていただいてるのですが、確実に届くように、これからも広報紙やツイッターなどを活用しながら、メトロさんと協力しながら進めてまいりたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

○森本委員

ありがとうございます。

いろんな方がオンデマンドバスを使いながら、行きたいところ、逆に言うも行ける場所をまたつくっていかなあかんということかなというふうに思うんですが。あと就学前も含めて小学生、中学生のあたりですね、子育て支援それから教育支援というようなことで、加藤委員、いかがでしょうか。何か思っていらっしゃるどんなことでも結構です。

○加藤委員

西生野の加藤ですけども、今子どもの安全の面では、学校の再編成はするけれども、そっちが後回しになってますわね、今ずっと。通学路ね、以前から言ってますけども。いうたら未来学園の前の道、車のところをもうちょっと狭くして歩道にすればね、学校の前安全ですね。

また何年かしたら勝山校区のほうもね、学校再編成、鶴橋とのありますし、子どもが学校へ行くときの通学路をどう確保するかいうのもね、再編成するときにはそれもセットで同時にやってもらったらね。

○森本委員

ありがとうございます。

学校の再編について通学路の安全をぜひ優先で考えていただきたいというご意見で賜りたいと思います。ありがとうございます。

あとまだ20分ぐらいあります。何でも構いません。生野区の子育て支援、また教育支援というようなことで課題だなと思われることだとか、こんなふうになったらいいのになとか思われるようなことがありましたら、また皆さんご発言をいただけたらありがたいなと思いますがいかがでしょうか。

○大藤部会長

異南の大藤です。よろしくお願いします。

学校の授業の後、できたらそのまま学校から帰らずに、補講授業みたいな形で誰が来てもいいようなそういうような塾になってもいいですし、塾じゃなくてもいいですから、移動せずにそのまま安全な中で学習力のアップやったりとか、今日はそこで宿題して帰るとかいうようなことができるような環境ができてくれたらいいかなと思うんです。

基本的に言うたら、中学生もですけども、生野区の異中学校やったりとか新生野中学校やったりとかそういうところにわざわざ行かなくても、自分の学校でできるという環境が僕は欲しいなと思うんです。外へ出ることというのがいいこともありますけども、帰らへんことがそのまま自分のモチベーションを維持したまま学校に残れる。家帰ったら、次自分のオフの時間を過ごすというような環境になったほうがいいのかなと前から思ってます。

先ほどの外国人の生徒さんが増えたということに関していいますと、うちの娘ぐらいの頃からかな、外国人の彼女らの友達の名前を家に持ち帰るようになってきて、ああそうなんや、普通に接することができるんや、僕らどっちかというたら英語恐怖症があったから、外国人を見たらちょっと避けて通ろうかみたいな感じやったのに、この子らは普通なんやと。それがよかったのか悪かったのかは分かりませんが、外大に行ってみたりとか、そういうふうな環境に進んだんかな。今年の夏以降は1年ほどスペインに行きよるんですけども、そういう方向へ子どもの脳が行くかなと。だから、周りにいろんな人が増えるということはすごいありがたい。

先日、中学校の学校協議会で聞かせてもらったんですけども、今までは本当にそれこそ韓国人の方の事業が民族学級というのがありましたよね。それ以外の外国人の方のフォローはどうしてるんですかと言ったら、個別にフォローはしてますというふうにお聞きして、ああもうそれはやってもらえてるんやったらありがたいなとほっとしました。

自分の子どもを中に入れてしまうのも、中で守るのも大事やけども、外へ出すことでそういう新しい刺激で自分の未来が変わってくることもあるので、どんどんまち協の行事とかにも来ていただきたいし、それこそ保育園へ行く前の子からそういう行事に参加してほしいですね。そのお父さん、お母さんがこういうところでこういうイベントをするためにこんなに人が集まってやってくれてんねやというところで、ちょっと縄跳びの縄持ってくれるというところら辺からでもいいから協力でき

るような環境になってほしいです。

○森本委員

ありがとうございます。

ご自身のお子さんの話も含めていただきましたけれども、いろんな人が出会うということの中で広がりがあるという、それは本当に生野区のいい取組なのかなと感
たりしています。

一方で、日本語を母語に持っていない子どもたちの学習のことであるとか、アイデ
ンティティのことであるとか、またその辺のことも私たちも視野に入れていかない
といけないというところはあるのかなというふうに思います。

それでもいろんな言葉と出会っていく中で、自分たちが刺激を受けて変わってい
くというようなこともあるんだなというふうに感じました。ありがとうございます。

○塚本副部長

今、南巽のほうで塾をしまして、小学校、中学校の子どもさんたち10名ぐら
いと接していて感じるのですが、学校の授業の様子だとか、授業をどう受けている
かとか、勉強に対してどう取り組んでいるかとかということ、やっぱり学校さん
も結構いろんな学力の子どもさんたちがいる中で大変だなというふうには思います
けれども、かなり勉強中心なんですよ。

いくの塾も勉強中心、要するに外部の塾にお願いしてされておられる。I K U N
O未来ですかね、これは広いジャンルでやっておられるので、生野区さんだけじゃ
なくて全国そうなんですけど、勉強中心はちょっと行き過ぎた感覚がありまして、
例えばこの間のニュースでアマゾンで40日間生存した15歳以下の子どもさんたちが
いて、自分たちの力で生きてのびたという話を聞く一方、やっぱり生きていくうえ
での何かエネルギーというのが今の子どもさんたちはあまりにもなさ過ぎて、私が
やってるNPO法人のまなびの風というので、この前、葉っぱの葉脈標本でしおり
を作る、葉脈を溶かしてしおりを作るとか、今度水素エネルギーでロケット飛ばそ
うとかそういう企画でいろいろやりましたら結構応募が多くて、今度夜に光るプラ
スチックのキーホルダー作ろうとか、やっぱりそっち系も重要だなと思って募集し
てやり始めてるんですけど、要はあまりにも勉強中心、塾中心でということが生野
区さんだけじゃないんだと思うんですけど、そっち系でがっ行き過ぎている感じ
がするので、子どもさんたちがもう授業についていけない人がわんさか出てきちゃ
ってて、どんどん増えていってる感じがするので、そこからちょっと脱却するた
めにも、生野区ではI K U N O未来教育ネットワークですか、何かいろんな企画をち
ょっと多くしていただいて、自由に参加できるものを私も増やしていきますけど、
そういうのをやっていただきたいなというのをちょっと要望も併せてお話ししたい
と思います。

○森本委員

ありがとうございます。

勉強のみだけでなく生きていく力を、生きる力ということでご意見いた
しましたが、今日の資料の11ページにI K U N O未来教育ネットワークというところ
で、リゲッタさんとコラボした靴作りとか、他にもパン作りとかいろんなことを

やってみましたというご報告もいただいてたんですが、生きる力のためにもっといろんなことを例えば生野区の中の企業の方と一緒にコラボするとかというようなことの中で、勉強だけではないものを何か力につけていくというか、そんなこともできたらいいかなというご意見だったのかなと思っています。

こんなものができたらいいよねとかということも含めてご意見があれば。

○洪委員

以前お話ししたことあるかなと思うんですけど、生野区はやはりいわゆる障がいを持ってる方とか、障がいにはいろいろあるかなと思うんですけど、いろんな人たちが住んでいて、住んでいるからこそ、先ほどおっしゃったように多様な人種やとか民族があるからこそ、例えば英語圏だけではなくて、英語はみんなそれこそもう今は教科になってますし、評価の対象にもなるので、英語は当たり前になるような形ですけど、それ以外の母語を持つ方がとても増えていることで、多様な考え方であるとか、言葉そのものもそうですしというように、障がいのある方もいろんな方がいらっしゃって、そんな人たちの私はアートであるとか、生徒が外国の人たちのいろんな法律が今ありますが、その人たちがやはりその人たちを通してその人たちも生きていける。要するにお金目当てじゃないですけど、ちゃんと働きに合った収入が見込めるようなものを今すぐはできないけれども、そういうことをつくっていく素地が生野区はあるんじゃないかなとずっとと思っています。

なぜなら、ものづくりがすごく盛んで、伝統的なものもたくさんありますし、いわゆる日本の伝統的なものもあるし、工業製品であるとか金型とか、ああいうものはとても素晴らしいものがあると思うんですね。そういうものを本当に最初はちょっとやっぱりいろんな人にバックアップしてもらわないといけないけれども、その中に1人でも面白い、さっき先生がロケット飛ばすとおっしゃったのもそうですけど、ロケット飛ばすことってそこまでの過程に科学的なものとか、それとかみんなと一緒にチームワークで何かを造るということに面白みを持った人間は、その仕事に直接行く人もいるかもしれないけれども、違うことに興味を持つ。障がいの人だとかいろんな外国の人たちが私もいろんな子どもたちと出会ったときにおおっというものを、やっぱり自分に感性はなくても子どもの感性を借りながら、その子たちをやっぱり主役にしていくということは幾らでもできるわけで、1人、2人って小さいかもしれないけど、やっぱりそれを積み重ねていくしかなくて、生野区の強みというのはそういうところだと思うんです。

だから、前もオンデマンドバスで周遊とかしたらどうですかと言って、回答があってうれしかったですけど、そういう何かやっぱりないものねだりではなくて、私たちの持ってる宝を最大限活用するということに、ここにもこれがあるんですが、これがやっぱり広がってるということが分かるようにしてほしいなと思ってるんです。桃谷中学校の子どもたちだけではなくて、田島の子らだけではなくて、これらの子も生野の財政になってるんだとか、何か本当に見せながらも地道にいろんな活用していくということは仕掛けてほしいというか、逆に言えば役所は何ができるんですかとか、役所やからここまで限界なんですやったら、これを上手に民間に放り投げられるようなツールをつくってもらったらなと。

私、宝物はいっぱいあると本当に思っているんです。そこを何とかしてもらえないかなというのは本当に思っています。

○森本委員

ありがとうございます。

生野区は宝物がいっぱいあるというすごくうれしいご意見をいただけたかなというふうに思うんですが、そろそろ時間が8時に近づいてきてますので、最後、今日もう1回だけ一言ずつ思ってることをお話をいただけたらいいかなって。今までのこと何でも結構です。子育て支援・環境づくり、教育支援・環境づくりで思うこととお話しいただけたらと思いますので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

○上田PTA協議会会長

失礼します。上田です。

聞かせていただいて、本当に確かに確かにとと思うようなことがたくさんありました。先ほどおっしゃられたみたいに、生野区ブランドというか、生野区の認知度というのを上げるというか、そういうのは必要なのかなと思いました。

昨日ちょっと市のPTAの総会のほうに参加してきましたんですけども、生野区から来ましたということを僕が伝えると、意外と生野区出身の方々が結構おられたんですね。例えば今はもう生野区ではなくて中央区に住んでますとかというような方々が何人かいらっしゃって、ちょっと何で違うところ行ったんやろうって、こっそりというか思ってたんですけども、そういうのも含めて生野区ブランドというものを具体的にどうというのは言えなくて申し訳ないんですけども、生野区ブランドというものを上げていくという、認知度とかというのも必要なのかなと思いました。

あと、加藤委員さんがおっしゃられたみたいに道とかですね、実際に住む環境として、空き家が多いであるとか、公園が少ないであるとか、道が狭いとか、電車の駅が遠いとか、何かそういう言い出したら切りがないんですけども、そういうのを長期的に考えていけるならば、また子育てしやすい環境というか、そこに住みたいなと思えるような地域になっていくのを目指せば、子どもも子育てしやすいかなとかというのは思ったりはします。というようなところですね。ありがとうございます。

○森本委員

ありがとうございます。

ちょっとさっき話していただいたお向かいに行かせていただきましょうか。いいでしょうか。

○山崎委員

山崎です。

特に何かうちの地域は子どもよりも年配の方がすごく多くて、ここ今こどもの未来部会なんですけど、年配の方と接することがとても多いです。特にまちづくり協議会であったり社会福祉協議会になると、特に年配の方ばかりで、僕が一番若いぐらいになってしまいうんですね。

だから、うちの地域では小学校のいきいきの子たちとお年寄りの年配の方をつなぎましょうという会をつくったりとか、何か子どもだけではなかなかできないそう

いう何か知恵袋みたいなのをおじいちゃん、おばあちゃんに教えてもらったりとか、そういう何か細々とはやっているんです。

ただ、そういうのをなかなか企画としてアイデアが難しいので、例えば生野区でもっとこんなんやってますよと、どこを見たらそれが分かるのかなとか、いろんなことされてると思うんです、いろんな地域で。だからそういうのももっと共有できたらいいなと思いました。

○森本委員

ありがとうございます。

じゃあ、加藤委員。

○加藤委員

生野区でも地域によって年齢層が北異、南異とかああいうところは割と若い人が多いですね。生野区でもガード沿いは逆に年齢の高い人が多いんです。言うたら生野の中の過疎みたいな感じでね。小学生の数よりも年寄りの数のほうが何倍ぐらいかな、一つの地域では20人ぐらいしか子どもがいてなかっても年寄りには100人以上いてるとかね。そういう世代の交代がなかなかできてないところも確かに多いですね。空き家のままで放っているというのも世代の交代ができずに若い人が入れない。その地主さんとか家主さんが亡くなって相続したらまた変わるんですけどね。そういうので、新しく入ってくる人も徐々にはあります。まだそれでも10年ぐらい先になったら、小学生、中学生ぐらいになるような子どもさんがね。

○森本委員

ありがとうございます。

そしたらもう一度。

○洪委員

もうあれかなと思ったんですが、皆さんのお話を聞いて、子どもの未来ということで、私は公園がすごく気になってるのも一つでして、昔はもうちょっと公園に緑があって雑草を抜いてはったと思うんですね、ちゃんと。でも何か1年に1回か2回だけになったとちょっとちらっと聞いたことがあって、あれだけ草がぼうぼうで、あんなったら公園行きにくいんじゃないかなと思っています。もちろんごみとかもですが、ごみを出して持って帰らへん人が悪いんですけど、そこをちょっとごみは置いておいても、緑の雑草を抜くとか、この頃は公園の整備とか、いろんなまちの掃除は地域の人たちに任せていることが多いですね。それはそれで大事やと思うんですけど、やはり公の公園はもちろん私たちも守らないといけないけど、やっぱりそうして大きなところは整備をしていただきたいなとかというのはすごく思っています。

それと、ボール遊びができるところが本当にはないんですね。だから学校を使う。でも学校も時間もありますし、もっと言うたら学校は自分の学校の子どもらだけですけど、でもボール遊びができないから。小っちゃいお子さんがいてるからできないけど、でもやっぱりしてしまっただけで子どもがトラブルになるとか。気持ちは分かるんですね。思い切り蹴れる場所とかね、野球まではいけなくてもキャッチボールできるとか、何かそういうボールで遊べる場所が、例えば今学校がどんどん統廃合

されていって、運動場があって、例えば中学校と一緒に使うということがありますけど、管理の問題は絶対あると思うんですけどね、何か子どもたちが遊べる場が欲しいなというのは、そこには大人も一緒に遊ぶことができたりとか、今公園が公園じゃなくなっているじゃないですか。大阪城も何か緑がなくなってきた、イベントする会場ばかりになって。だから、何か誰もが行ける公園であることと、子どもたちのボール遊びの中に憩いの場は取られへんかもしれないけど、何か思い切り遊べる場が学校以外でやっぱり必要ではないかなというのは今皆さんの話を聞いてあらためて、ずっと思ってたことやったんですけど、草も取ってほしいし、ちょっと思いました。

○森本委員

ありがとうございます。
よければ。

○塚本副部長

大分意見はお伝えさせていただきましたけども、今日トータルとして、やはりこのこども未来部会での意見というのは、これで部会でも4回とか続いてきてますけど、いろいろ区役所も考えていただいて意見を取り入れていただいてやっていただけていると思うので、ぜひこの部会でいろいろな意見があったものにつきましては、ぜひご検討いただきたいなというふうに思います。

○森本委員

ありがとうございます。

○大藤部長

大藤です。よろしくお願いします。

僕、何年か前に中学校の職場体験の会場をさせてもらったことがあったんですけども、簡単に言うたらうちはプレスと板金なんで、結構シビアな仕事なんですけど、よう来てくれたなと思ってたんですけども、切って抜いて曲げてというところをして、アルミの板でお道具箱を作ってもらったんです。当然ながら上の蓋と下の本体があるわけなんですけども、材料の計算を間違えたら違うものができるよと。材料の計算から入るんですけど、なかなか材料計算を教えても身につかない。身につかないというか、それはすぐにはでけへんと思うんですけども、ワンパターンのことをやってても、片方の一辺から0.8引くんだよというても、それが両方も引かなあかんねんというても計算がなかなか合えへん。困ったなと思いながら、やっと何か計算ができて、切って曲げてというふうにしていって形づくったときに、すごい最終的には喜んで、仕上げにスポット溶接とアルマイトというのがあって、それは外注に出したので、そこは子どもには見せられへんかったんですけども、学校まで持っていってあげたら学校の先生の分も含めてすごい喜びはった。

だから、計算はすごい大事なんや、これを間違えると違うもんができるよということを口酸っぱく言うたら、その年の文化発表会のときにそれをA0の紙に書いて、「計算は大事」と書いてあったから、すごい感動してね。そのときの体育館での発表のときとかも、今まで前へ出て何か歌うような子じゃなかった子が、大藤さんが来てくれるから僕は今回は裏方せんと言った前で歌うという話を聞いたときに、もううる

つときますよね。

もうそういうのを子どもにも与えてるかもしれへんけども、子どもからももらうものがあるというのがすごい大事やなということで、こどもの未来部会でいつか話させてもらおうかなと思いながら、なかなか話す機会がなかったんですけども、子どもに対しての感動の話でした。ありがとうございました。

○森本委員

ありがとうございます。さすが部会長で。

子どもたちのことを考えてるけど、子どもたちのほうから教えてもらったりすることがあるんだということで、皆さんに意見をいただきました。ありがとうございます。

公園のこと、高齢者が多いこと、空き家があること、通学路の安全、このあたりはほかの部会、まちの未来部会、くらしの安全・安心部会でもきっとお話はいただいているところだというふうに思いますので、そういう意味ではこの三つの部会はうまくセットされてるんだろうなというふうにも思っています。

子ども×ものづくり、子ども×オンデマンドバス、子ども×経験カリキュラムですかね、その辺のところを含めながら、子育てがしやすい、教育が支援しやすいというまちづくりを私たちが考えていくことで、子育てが終わり教育が終わった人が、大人になってまたこの生野区へ帰ってきて子どもを産んで育てる。そんなルーチンがうまくいく生野区になるというのがこの部会の持つイメージで期待していることなのかなというふうに思いました。

一応皆さんに一巡で最後お話いただきましたが、もう時間が迫ってるんですが、もうこれ聞いてもう一言だけやっぱり言いたいとかというのはございませんか。どうぞ。

○大藤部会長

よく子どもの交通安全のこととかですごくおっしゃる方が多いですけども、結局子どもの安全は親が守るものなんです。学校への通学路の危険なところはここやよって教えるのも親やったりとか、右を見なさい、左を見なさい、もう一回右を見なさいというような教えをするのも親なんです。

でも、今その親が子どもを自転車に乗せて平気で信号無視をして渡っていくようなことが多い。子どもはやっぱりそれをそのままねしてしまうので、だから子どもの安全を語るんやったら、まず親が自分のことを語りなさい。やっぱり子どもの安全については親と学校と地域、そこがやっぱり一緒になって考えてほしいです。でも、やっぱり親です。だから親がしっかり子どもの安全を守るように、親は子どものことから目を離さないようにやっていってほしいなとつくづく思います。

それはもう海行ってもプール行っても山行ってもそうやと思うんです。なので、これが伝わってほしいなというふうに思ってますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○森本委員

ご協力をいただきまして本当にありがとうございます。これで皆さんの意見の交換の時間を一旦終わらせていただこうと思います。

では、マイクを返させていただきます。

○大藤部会長

森本委員長、ありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

○杉本区政推進担当課長

事務局でございます。

委員の皆様、お疲れさまでございます。

本日いただいたご意見につきましては、次の全体会で報告いただくことで他の部会の委員の皆様にも共有いただきますので、よろしくお願いします。

報告内容につきましては、事務局でひとまず整理しますので、部会長及び本日進行を務めていただきました森本先生と調整させていただきますので、よろしくお願いします。

続きまして、2点その他お知らせがございます、本日、参考資料3として配付してございます区政会議の委員改選についてというのがございます。ご覧ください。

本市の区政会議の委員の任期は条例によって1期2年で最大2期4年と定められておりまして、委員の皆様の任期が一旦本年9月末までということになってございます。

つきましては、10月以降の委員の選定につきまして、地域からのご推薦をはじめまして現在手続を進めているところでございます。本部会におきましても、この皆さんのメンバー構成としては本日で終了となってございます。

続きまして、資料裏面をご覧くださいと思います。

名簿があると思うんですけれども、本部会、こどもの未来部会では上から順に池原委員、山崎委員、大藤委員、塚本委員、そして森本委員の5名の方が任期4年ということで今期にて任期満了されるということになってございます。

つきましては、本日ご参加で任期満了される委員の方に名簿の順に一言ずついただければと考えております。

それではすみません。最初に山崎委員のほう、よろしくお願いしたいと思います。

○山崎委員

山崎です。

4年間、区政委員として参加させていただきました。仕事柄ちょっと出張とかもあって欠席することも多々あったと思うんですけれども、4年間参加させてもらってよかったなと思ってます。

ただ、これを今この会議で持ち帰った議題をどう実現していくか、話し合うだけでは全く意味がないので、そういうことも一応私、東小路の社会福祉協議会にも参加しておりますので、そこで話したりとかもするんですけれども、どう変えていくか、どうやっていくかというのがとても大事だと思ってます。

4年間、これで私、任期満了で今回で終わるんですけれども、元委員として何かできることは協力していきたいですし、先ほどそれを言って言ったのが何かカード的なもので近所の方に、外国人の方に、年配の方にぱっと渡せる何かがあれば、会議に来てなくてもそういうところで協力できるんじゃないかなと思って先ほど思いつ

きました。

この会議が今後もますます有意義なものであるように心から願っております。どうもありがとうございました。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

それでは次に、部会長を務めていただきました大藤委員、よろしくお願いします。

○大藤部会長

4年間ありがとうございました。いろいろお願いすることとかたくさんあったと思いますけども、それこそ山崎さんのおっしゃられたとおり、実現してこそ会議はあると思うので、そこを何とか一つでも二つでも実現可能なものは進めていただければ部会長としては本望です。やっぱりせっかく時間割いて来てるわけですから、そここのところはよろしくお願いします。

どうも4年間ありがとうございました。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

それでは塚本委員、よろしくお願いします。

○塚本副部会長

4年間あっという間にたちました。コロナの2年とかいろいろありましたけれども、私は最初2年間、くらしの安全・安心部会で、地域包括ケアシステムとか薬剤師の立場でいろんなことで質問を出させていただいたりしても、必ずきっちりと区役所の方が丁寧にお答えを書いていただいて、本当に区政会議の委員に対して誠意を持って対応していただいているなというのを感じました。私もその頃初めの頃で、全然そういうことも分かってなくて、生意気にもいろんな質問させていただいたんですけど、本当に区役所の皆さん頑張って日頃仕事されておられるなと思って、一員として一緒にさせていただきたいと思って。

2年目は子どもの立場ということで、NPO法人の関係で子どもを見る親の視点とかそういったもので2年間過ごさせていただきました。やはり、歩道の歩き方とか歩行者用信号を守るとか、それまで私、区政会議委員する前は2割ぐらいしか守らなかったんですけど、区政会議委員になってから9割守るようにしてます。子どもや自転車で待ってるときは絶対に行かないということで、区政会議委員でなくなってもそれは守って、ヘルメットもかぶるようにしていきますので、どうぞこれからも頑張ってくださいと思いますし、私もできるだけ区に対して何か協力できることがあればと思って頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

それでは最後に、ファシリテーター役を務めていただきました森本委員、よろしくお願いします。

○森本委員

本当にお世話になりました。ありがとうございます。

私は皆さんの話をうまくお話しただけのようにさせていただく役なんですが、

まずもってすみません、役不足でおわびを申し上げます。でも、私のほうはお話をいろいろ聞かせていただけて、すごくいい学びになったなと思っています。

それと併せて、ここへ来させていただくことで生野区がどんなふうに進んでいるのか、また進もうとしているのかというあたりも間近で聞かせていただくことができて、これもうちょっと何かうまく市民にうまく発信できないかなというのはやっぱり思いました。ここだから、これってこうなってたんだといろんなことが分かる。そういう意味では生野区の区政もったいないので、うまく発信もしていただけるといいのかなということをお願いして、お礼の言葉に代えさせていただきます。

本当に今までありがとうございました。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございました。事務局からの報告は以上であります。

○大藤部会長

それでは本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いします。

○筋原区長

皆さん、本日も長時間にわたりまして貴重なご意見、誠にありがとうございました。

今日様々なご意見、お話をいただきまして、あらためまして生野区に多い外国の方のサポートですね、これは保育所のほうでもやっぱりポケトークだけではなかなかコミュニケーションができないというお声もちょうくちよく私もお聞きもしております。また、小中から高校のほうは、わかば高校、多くの国の高校生の方がおられて、またこれもいくのパークの多文化ふらっとさんと母語の絵本の読み聞かせであるとか、いろいろな活動サポートをしていただいておりますので、そこからのまた町工場等への就労サポートでありますとかそういうことも含めて、保育所から働くまでの様々な年代でのサポートを行政としてこれからも取り組んでいく必要があるとあらためて思いました。

やはりそれぞれの年代での居場所ですね、それでまたそれが最後働く場所となり、また一旦外へ出てまた戻ってきていただけるように、そういう形で取組を進める必要があると強く思った次第でございます。

また、勉強だけではない生きる力を育むということでは、未来教育ネットワークでも、そういう起業をイメージした体験をしてもらうというようなこともやっておりますけども、やはりまず面白く働く大人が増えて、その大人が自分の仕事の面白さを子どもたちにしっかり伝えと、それによって子どもたちも憧れる大人、憧れる仕事を持ってもらうということがすごく大事だと思って、そういう意味では大藤部会長の子どもたちが体験に来てくれて計算は大事というようなことで、それでまた積極的になったというのは、まさにこの流れを体現しておられることをしていただいたと思っておりまして、こういう機会をどんどん増やしていくということはすごく大事だなと思いました。

それからあと、生野区に宝物がいっぱいあるというお言葉をいただいて、これは本当にそのとおりだと思っております。

それで、社会課題も生野区の場合はたくさんあるわけでございますけども、でも

社会課題というのは生野区の宝物を輝かせる素材にもなり得ると思っています。

例えばこれ生野区ではないですけど、ほかの事例でいうと、障がいをお持ちの方の課題解決というのは、例えば町工場の技術力でそれに取り組むというのは一つの課題解決になって、これは東京の墨田区の例ですけど、ALSの障がいをお持ちの方がもう眼球しか動かないんですけども、その眼球だけで動かせるロボットをベンチャーが造って、それを墨田区の町工場の力で一緒に造って、それでそのALSの方が目だけで動かしてそのロボットで、そのロボットはカフェに、ロボットカフェですね、そこでウェイターとしてロボットで働いて、そのALSの方がそれで初めて収入を得たというような、これは実際にあったOriHimeプロジェクトという事例なんですけれども、このことは生野区の非常に高い町工場の技術力がありますので、そういうベンチャーのアイデアと生野区の町工場の技術力で実際に形にしていくというようなことでの取組もこれから展開していけたらなと思っております。

また、公園の草の話をおっしゃっていただきましたけど、大阪市は今、草は除草剤を使わないというのを何年か前に決めてるんですけども、でも今、生野区内でいろいろな有害な物質の入っていない除草剤を開発されているところがありまして、ちょっとそこの技術を活用して、今どうしても公園が建設局のほうで人手足りないのですね、その生野区さんの除草剤をうまく活用して除草をできないかというようなことは、ちょっと今話してるところですので、いろいろな形で実現できたらと思っております。

そしてまた、安全・安心の取組、通学路の課題につきましては、これは本当に非常に重要な課題と認識しておりますので、引き続いての取組を進めてまいります。

本日は本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

○大藤部会長

ありがとうございました。

区政会議は生野区の将来について区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。7月27日木曜日には第1回全体会の開催が予定されておりますので、活発なご意見をよろしくお願いいたします。

それでは、これにて本日のこどもの未来部会を終了します。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。